

‡ 連載Ⅲ＜地域振興 6次産業化認定者の取組事例＞ 7 ‡

「伝えたい」をカタチに！農業と牛の魅力あふれる「COWCOW Café」 芽室町 株式会社 大野ファーム

北海道農政事務所帯広地域拠点 主任農政推進官

さ さ き ま さ し
佐々木 正志



1. はじめに

帯広市の西側にある芽室町の広大な敷地内で、健康な「人」・「土」・「牛」づくりを三本柱としレストラン事業等の6次産業化に取り組んでいる「株式会社大野ファーム」をご紹介します。

大野ファームでは、生態系や自然環境と調和した地域内循環型の農業生産を行いながら、畑作と一貫肥育の飼養体系による畜産業を行ない、畑の中で自社農畜産物を原料に加工品の製造、販売を行っています。



写真1 レストラン「COWCOW Café」

2. 6次産業化に取り組むきっかけ

昭和61年に設立し、現在、畑65haで小麦、甜菜、大豆及びデントコーンを栽培し、さらに交雑種とホルスタイン種の肥育牛を計2,500頭飼養する耕畜複合経営の農業を行っています。

平成15年から健康な牛を育てるために飼料にこだわることに着目し牧草・麦わらを自家産で賄い、配合飼料は非遺伝子組換えの原料を使用しています。また、仔牛に与えるミルクから配合飼料までモネンシンという抗生物質を利用

していない飼養形態に取り組んでいます。

平成20年には関連会社「株式会社大野キャトルサービス」を設立し、素牛の生産にも着手し一貫肥育の飼養体系を確立してきました。

しかしながら、輸入肉と競合関係にあるホルスタイン種の枝肉相場の下落傾向が続いていたことから、付加価値を高めより競争力のある安定的な農業経営を行う必要があるとの思いを強くしました。

3. 取組み内容の概要

大野ファームでは、これまで消費者と生産者の「顔の見える関係」づくりに努めてきました。平成16年から産直取引を開始し、店頭販売への参加や小学生を対象にした「未来めむろ牛に会いに行こうツアー」等に取り組んできました。

その後、「消費者に畜産農家をより身近に感じてもらい、気軽に足を運んでもらえる牧場にしたい」との思いから、平成23年度に総合化事業計画の認定を取得し、平成25年7月、ハード事業の補助金を活用し、畑の中に加工施設や直売を兼ねたレストラン「COWCOW Café」をオープンし、牛肉や小麦、馬鈴薯、地域の新鮮な



写真2 「COWCOW Café 店内と景色」

GTBH

野菜を使ったステーキ、ハンバーグ、ロコモコ丼などの提供を開始しました。

平成 26 年からは、牛肉を原料にカレーやシチュー、ハンバーグ、ソーセージ、コーンビーフなどの加工商品の製造も開始し、インターネットやレストランで直売を行っています。

また、自社産の春播き小麦を使用した食パンや、スープに良く合うカンパーニュ（田舎風パン）の製造も手懸け、レストランで料理とともに提供しています。



写真3 左：カットステーキプレート
右：ロコモコプレート

原料となる牛肉は、ほど良い霜降りや赤身の美しい見た目と、旨みたっぷりの味が特徴で、「未来」という名前を付け、自社ブランドで流通しています。

この「未来シリーズ」は、社団法人全国肉用牛振興基金協会の「国産若牛」（おいしく、お求めやすく、何より安心できる牛肉です）の認定も受けています。

大野ファームグループでは、「消費者により安全、安心な牛肉の生産、加工商品を提供するため努力を惜しまない」という強い想いから、平成 29 年 3 月、畜産農場における衛生管理をより向上させ、健康な肉牛を生産するため「農場 HACCP 認証」を取得するとともに、同年 10 月には「JGAP 家畜・畜産物 2017」も取得するなど、安全・安心の取組に対しても常に前向きに取り組まれています。

また、牛舎間の空きスペースを活用した太陽光発電事業を導入するなど、常に挑戦者の視点を忘れず取組を進めています。



写真4 畜舎間の防疫上活用しない空き
スペース活用の太陽光発電施設

4. 6次産業化の課題と今後

レストランの来客数は、情報誌や SNS 等での PR、地元客の交流の場として口コミで増加し平成 29 年には 8,000 人となりました。また、道東自動車道の芽室インターより 3 分、帯広空港から車で約 35 分の好立地で、国内外のマスコミ取材や航空会社の機内誌への掲載等の効果もあり、タイや台湾、豪州等、国内外の観光客にも多く知って頂くようになりました。

しかし、現状に満足することなく、課題である「年間を通して、いかにしてお客様に農場まで足を運んでもらうのか」を最大のテーマとして掲げ、国内外の牧場等視察・取材等への対応や宣伝活動に継続的に取り組んでいるところです。

大野社長からは「今後も地元の交流拠点として、来店者との繋がりを大切にしながら、さらなる農業・6次産業化の広がりに向け、新たなメニュー開発や加工商品アイテム数を増やし、地元農産物の直売も併せた直売店舗の開設等を視野に検討していきたい」とのお話がありました。

今後がますます楽しみな大野ファームの「COWCOW Café」是非足を運んで見てください。